

《編集後記》

このところ恒例になってしまった「合併号」をお届けします。いつもながら発行が遅れ、早くから原稿を頂いていた方々にご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます。そして、いつもに比べて半分くらいのボリュームの号になってしまいました。会の現況と編集担当者の心中を察していただけたと思います。

前号が出てからの2年間、世の中は激動の時代でした。昆虫の世界でもいろいろな動きが見られました。日本昆虫協会が設立され、我々虫屋の存在を世間に正しい形で伝え、昆虫採集の本来の意義を理解してもらおうとしています。また、日本蝶類学会もデビューし、研究者や愛好家を募って独自の路線で動き出そうとしています。

さて、但馬むしの会ではどうだったでしょうか。若手が新風を吹き込んでくれるなど一部で明るい話題もありましたが、それ以外の部分では残念ながら代わり映えしなかったといわざるをえません。もう一度、初心に戻って、活気溢れる会にすることは出来ない相談なのでしょうか。

締めくくりとして、前回の編集後記の一部を引用することにします。「会を盛り上げ維持していくのは、会員ひとりひとりの力です。そして、会のもうひとつの主旨である親睦をはかりながら、虫とつき合っていきましょう。今シーズンこそ、あなたに期待したいと思います」

I R A T S U M E No.15, 16

1992年4月30日発行

発行者：但馬むしの会

編集者：谷角素彦・石田達也

連絡：☎669-68 兵庫県美方郡温泉町

黒井和之方